

日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 4 (通巻395号) 2000年4月

理事会報告

3月22日(水)

1. 以下の報告を了承した。
 - ・協会紹介のためのパンフレット製作中。
ドイツ語関連図書に関するシンポジウムが Frankfurt Book Fair のPR を兼ねて、東京ドイツ文化センターにて6月下旬に開催される。
(広報・渉外委員会)
 - ・TIBF 2000洋書バーゲンセールには13社が参加する。
(事業委員会)
 - ・ホームページ試験版が完成した。近々会員に操作マニュアルを配布し、ID 及びパスワードを付与する予定。又、平行して準備中の冊子体名簿への広告を募集している。
(ダイレクター委員会)
2. 2000年度予算・総務委員会案を審議し、承認した。
理事会案として定時総会に提案する。
3. 出版物の複写権に係わる(株)日本複写センター及び米国 CCC の契約交渉に関連して、CCC に対して契約対象から輸入出版物を除外するよう申し入れた結果、同交渉は事実上決裂した。
(金原理事)

海外ニュース

BLOOMSBURY は、J. K. Rowling 著のハリー・ポッター・シリーズの次作を初刷 100 万部で出版する。この最新刊は 7 月 8 日発売の予定。イギリス市場向けの初刷部数としては新記録となる。ブッククラブからの予

約注文はすでに 4 万部になっている。

出版社は現在プロモーション計画を進行中で、アメリカを含むすべての英語圏市場がターゲットである。土曜日の朝11時から11時半の間に書店店頭と並べられる予定で、これは昨年夏発売された *Harry Potter and the Prisoner of Azkaban* の発売時刻 (午後 3 時45分) から割り出されたもの。

出版に際しては、約一週間ほどのあいだ、著者の Ms. Rowling によるサイン会がイギリスじゅうの書店などで開かれるとのこと。

新作は 640 ページと、前作 "Azkaban" の約 2 倍の長さで、価格も 4 ポンド高い 14.99 ポンドになる。映画会社はすでに第 1 作の映画化権を獲得しており、4 月 1 日発売の "Azkaban" ペーパー版は、この映画のプロモーションと連動して宣伝される。ペーパー版の刊行部数は 75 万部である。

THE BOOKSELLER/MARCH 31, 2000

英ピアソン 教材のネット配信強化

AOLと教育関連コンテンツの配信で提携

フィナンシャル・タイムズを傘下に持つ英メディア大手ピアソンは、米アメリカ・オンライン(AOL)と教育関連コンテンツの配信で提携することで基本合意したほか、ネット関連 3 社に出資し、幼児から社会人までを対象にした教育支援ポータルサイトを育成する。FT ブランドを利用したビジネス・ポータルサイトをはじめな

目次

理事会報告・海外ニュース	1・2	出版文化史追憶(4)	3	4月になれば	6・7
うちの会社・お知らせ	2	1999年洋書輸入統計(中編)	4・5	広告	8

ど、新メディア企業への脱皮を図っている。今期のネット関連事業への投資額は、2月に新株発行で調達した2億5千万ポンドを含めて3億5千万ポンドとなる。

AOLとの合意では、ピアソンが今夏をめどに立ち上げる教育支援ポータルをAOLネットに優先的に接続する。これにより、AOLの世界の利用者2千2百万人を取り込むのが狙い。購読料、ライセンス料、電子取引などが収益源となる。AOLはタイム・ワーナーとの合併で合意しており、ピアソンとの提携形態の詳細は今後詰める。

またピアソンが、既に展開する教育関連サイトの拡充と各サイトのネットワーク化のために出資するのは3社で、スコア・ラーニング社（小中学生向けに予復習を支援する）、コベルニクス・エデュケーション・ゲートウェイ社（幼児向け教材）、ブラックボード社（世界70カ国の大学生向けソフト）である。ピアソンの教育事業の売上高は全体の五割を占める。98年に買収したサイモン・アンド・シュスターと傘下のアディソン・ウェズリー・ロングマンが軸である。

マージョリー・スカルディノ社長は、「インターネットは教材などの商品開発の方法や提供手段を大きく変えている」と述べ、ネットの重要性を強調している。自社のコンテンツをネット上に集積し、新メディア媒体と融合する方針を表明した。ニューヨーク証券取引所には年内をめどに上場する計画。

（ロンドン＝上野浩子、日経産業新聞20/04/05より抜粋）

JAIP DIRECTORY 2000

＜日本洋書協会ダイレクトリー2000年版＞

—5月中旬出来予定—

近々開設予定のホームページで全てご覧いただけますが、ご要望に応じて名簿部分のみ冊子体でも刊行します。併せてご利用ください。

会員頒布価 2,500円(送料共)

一般頒布価 4,500円(")

うちの会社

株式会社 友隣社

東京都文京区本郷5-28-1 サトービル3F
Tel: 03-3814-0275 Fax: 03-3814-1156

友隣社は昭和35年（1960年）岡本重賀氏らによって日本の学術文化を海外に紹介する目的で創設されました。その定款によれば、事業内容は 1. 図書、雑誌の販売及び輸出入 2. 外国文献の翻訳通信 3. 絵画及び美術品の販売及び輸出入であります。昭和40年（1965年）東京大学出版会の役員有志がこの事業を完全に継承し、東大出版会ははじめ日本の学術出版社の刊行物の輸出に努めました。昭和42年（1967年）自然科学の専門書を対象とした洋書輸入部を開設し、これが業務の主流になりました。とくに主点を数理学専門書におき、今日に至っております。欧米各国の主要な専門出

版社のうち数理学部門の代理店業務を担当するほか、国内専門書店の協力を得て関係図書の流通にあたり、全国各大学の数理学研究者間には絶大な信頼を得るようになりました。広く世界の数理学書の情報を収集し、読者の期待に応じて迅速・的確な専門書の流通を心がけております。社屋は東大正門と赤門の間の向正面にあり、充実した新刊在庫を取りそろえて研究者、読者のご来訪をお待ちしております。Yurinshaのホームページ (<http://www.yurinsha.com>) もご覧下さい。

中平千三郎

明治初期の目録に見る洋書〔14〕

丸善・本の図書館 鈴木陽二

◆明治16年洋書目録に見る輸入の状況(6)

お雇い外国人として招聘された“William Douglas Cox”は、その一生を日本の英語教育に尽くしたイギリス人であった。彼は日本で8点ほどの著作(単行本)を上梓したが、そのうち6点が丸善から刊行された。日本における英語教育の恩人であり、また明治期の丸善にとって重要な著者のひとりであったコックスについて、簡単に紹介しておくことにしよう。

彼は明治7年に駒場に開校した農事修学場(後の駒場農学校)の英語教師として、明治10年に来日した。3年契約ということであったが、結局明治38年に死亡するまでの約30年間、農学校から東京大学予備門、第1高等学校で教鞭を取り続け、またその傍ら神田淡路町にあった共立学校でも英語の授業を受け持った。政府は彼の英語教育に対する貢献を賞して旭日小綬章を授与した。

彼が丸善から出版した著述は、すべて日本の学生のために編纂した英語または英文学の教本であった。そのうち明治16年の洋書目録に掲載されているのは“*A Grammar of the English Language for Japanese Students*”(明治13年)、“*The Principles of Rhetoric and English Composition for Japanese Students*”(明治15年)、“*Glimpses of English Literature for Japanese Students*”(明治16年)の3点である。それ以外に丸善から刊行されたのは、“*Specimens and Exercises in English Composition*”(明治20年)、“*English Reader, for Japanese Students*”(明治21年)、“*Aids to English Composition and Translation for Japanese Students*”(明治24年)であった。

いずれも日本での授業から得た体験を踏まえて書き下ろしたもので、英文法、英文解釈、英作、修辞法、英語発達史など英語の諸科目を広くカバーした入門書である。とくに日本人が誤りやすい用法などに注意を払って豊富な例文を引用しながら指導し、また多くの練習問題も掲載して教科書としての効用を高めている。

彼の著作のなかで『日本の学生のための英文学略述』は英文学の本格的な教科書として編纂されたもので、5巻構成の内容は、劇(とくにシェイクスピア)・詩歌・

小説・歴史・随筆など文学全域で成り立ち、16世紀から19世紀までの代表的な文学者を選んで伝記・作品の梗概・批評などを盛り込んでいる。明治初期における英文学の摂取は、直接原作を読むばかりではなく、ウィルソン・リーダーやニュー・ナショナル・リーダーなど外国の教科書から知識を得ることも多かったのであるが、そういう意味ではコックスのこの著作などは西洋文学を吸収する恰好の啓蒙書だったのではないか。〔参考文献：『近代文学研究叢書』第8巻／『丸善百年史』／木村毅『丸善外史』〕

英語出版物とは違うが、この明治16年目録には日本で出版された外国語辞書が多数掲載されている。

これらの辞書の中でとくに重要なものはヘボン『和訳語林集成』(『和英語林集成』)、柴田昌吉・子安峻編『増補訂正 英和字彙』、荒井郁『英和对訳辞書』、それに英和ではないが、ロプシャイト『英華辞典』などで、いずれも明治初期を代表する辞書であった。

このうち最も注目すべきものは、ヘボンの辞書であろう。明治学院の創設者で、日本の教育に著しい貢献をしたJames C. Hepburnは幕末に宣教医師として来日し、医業の傍ら辞書の編纂を試み、著名なジャーナリスト岸田吟香(岸田劉生の父)を助手にして制作したのが美国平文先生編訳『和英語林集成』であった。初版は日本国内で横文字による活版印刷が不可能であった関係で、慶応3年に上海で印刷された。そして、第2版の改訂版は明治5年にやはり上海での印刷であった。丸善は明治19年に改正増補第3版を刊行したのが初めてなので、明治16年目録に『和訳語林集成』として掲載されているのは第2版のことであろう。初版は和英の部が約2万語、英和が約1万語であったが、第2版はそれに和英で3,000語、英和4,000語を新たに加えた。日本で最初の本格的な和英辞典として好評裡に売れ行きを重ねたことが、やがて明治19年の丸善による改正増補第3版の出版につながったものである。〔参照文献：高谷道男『ヘボン』／望月洋子『ヘボンの生涯と日本語』／惣郷正明『目で見ると明治の辞書』〕

1999年（平成11年）1月～12月の洋書輸入統計（中編）

荒木 亮一

6. その他の国からの輸入通関統計

主要6カ国（前編に掲載）以外で、1998年1月～12月に書籍および新聞・雑誌が500万円以上輸入された22カ国の1999年への推移と、主要6カ国を含めた28カ国の総合順位を示した。（お断り：合計額、パーセンテージ等で、数値が1乃至2異なるのは、小数点以下が計算されているためである。）

（表6） （単位 百万円）

国名	1999年1～12月			1998年 実績	前年比	1999年 総合順位	1998年 総合順位
	書籍	新聞・雑誌	計				
韓国	705	173	878	540	163%	9	12
北朝鮮	14	0	14	26	54%	26	24
中国	1,159	136	1,295	1,654	78%	7	7
台湾	253	9	262	194	135%	13	13
香港	1,550	316	1,866	2,353	79%	6	5
タイ	56	48	104	174	60%	16	16
シンガポール	3,203	95	3,298	2,315	142%	5	6
マレーシア	100	0	100	70	143%	17	21
フィリピン	7	1	8	7	114%	27	27
インド	30	3	33	34	97%	23	23
スウェーデン	22	1	23	9	256%	25	26
デンマーク	26	165	191	185	103%	15	14
アイルランド	31	0	31	19	163%	24	25
ベルギー	98	0	98	111	88%	18	17
スペイン	212	10	222	183	121%	14	15
イタリア	332	375	707	941	75%	10	9
ロシア	75	0	75	79	95%	21	20
オーストリア	20	58	78	98	80%	19	19
カナダ	76	11	87	58	150%	22	22
ブラジル	61	437	498	628	79%	12	11
オーストラリア	52	24	76	110	69%	20	18
グアム	0	1	1	5	20%	28	28
小計	8,082	1,863	9,945	9,793	102%	—	—
その他の国	193	7	198	162	122%	—	—

注1：総合順位は主要6カ国を含む（表3を参照）。

注2：統計の数字は、（前編）と同様に書籍、新聞・雑誌および幼児用絵本を含む。

<分析>

昨年同様に、1998年と1999年の輸入額の対照表とした。シンガポールからの輸入額が1997年の水準にほぼ戻って

いる。マレーシアが43%の伸びをしめしている。出版界における、大手出版社のM&A戦略の一環として、経営のグローバル化が進んでいる結果ではないかと思われる。香港は、イギリスから中国側へ主権が返還された1997年をピークに、1998年～1999年とつづけて減少しており、その役割がかわりつつあるようである。また、この数年、韓国からの輸入が昨年は50%、今年は60%と増加。これは日韓間の文化交流が継続して進んでいることを示唆しているのではないだろうか。（これらのデータから各位が必要とされる情報を読み取り、経営のために役立ていただければ幸いである。）

米英2カ国からの輸入合計額の占める割合は61%と昨年の64%より3%減であるが、主要な輸入先であったフランス、スイスにとってかわったのがシンガポール、香港。これらに取引先をもつ方々にとっては、フレイトと入手までの時間の節減に繋がっているのだろうか。

7. 為替相場の動向

1997、1998、1999の3年間の主要6カ国の通貨およびその他26カ国の為替相場加重平均の推移（富士銀行提供の資料による）

（表7-1）主要国通貨と通関額への影響一覧

通貨	1997 年間平均 為替相場	1998 年間平均 為替相場	1999 年間平均 為替相場	前年比 （一は 円高）	洋書雑誌 構成比	99年度 の影響 （前年比）
US\$	¥121.99	¥130.93	¥113.95	-12.97%	37%	-5%
Stg.£	¥202.27	¥216.92	¥184.34	-15.02%	24%	-4%
D.M.	¥70.51	¥74.39	¥62.21	-16.37%	8%	-1%
F.Fr.	¥21.14	¥22.19	¥18.55	-16.40%	7%	-1%
D.Gld.	¥62.63	¥66.01	¥55.22	-16.35%	2%	0%
S.Fr.	¥84.34	¥90.26	¥76.02	-15.78%	1%	0%
主要国 加重平均		¥100.12	¥85.05	-15.05%	79%	-12%
その他 26カ国	¥66.23	¥71.10	¥60.46	-14.96%	21%	-3%
計32カ国加重平均		¥76.54	¥65.07	-14.99%	100%	-15%

(表 7-2)

税関長が公示した相場の加重平均

(参考資料)

	為 替 レ ー ト											
	¥/US\$		Stg. £		¥/F. Fr.		¥/D. M.		¥/ITL 100		¥/DKK	
	レート	増減率	レート	増減率	レート	増減率	レート	増減率	レート	増減率	レート	増減率
99年1月	114.13	-12.8	189.75	-12.1	20.31	-6.7	68.45	-6.0	6.88	-7.1	17.89	-6.4
99年2月	114.18	-9.3	187.73	-9.1	19.88	-4.1	66.64	-4.0	6.74	-4.3	17.54	-3.7
99年3月	119.95	-5.8	194.29	-7.3	20.14	-3.6	67.51	-3.6	6.82	-4.0	17.76	-3.3
99年4月	119.62	-8.8	193.24	-12.0	19.73	-7.8	66.15	-7.8	6.68	-8.1	17.41	-7.4
99年5月	120.15	-9.2	194.80	-11.2	19.59	-11.3	65.68	-11.3	6.64	-11.6	17.28	-11.1
99年6月	121.53	-12.4	195.09	-15.8	19.42	-16.9	65.13	-16.9	6.58	-17.3	17.14	-16.7
99年7月	121.56	-13.4	191.59	-17.5	19.07	-17.8	63.96	-17.7	6.46	-18.1	16.83	-17.5
99年8月	115.91	-19.2	185.45	-21.1	18.76	-21.9	62.89	-21.9	6.36	-22.2	16.53	-21.8
99年9月	110.17	-20.5	176.85	-23.0	17.69	-24.9	59.30	-24.9	5.99	-25.1	15.61	-24.7
99年10月	106.34	-17.8	175.00	-20.2	17.20	-26.0	57.67	-26.0	5.83	-26.0	15.18	-25.9
99年11月	105.20	-11.1	172.76	-12.9	16.91	-20.6	56.49	-20.8	5.74	-20.6	14.93	-20.5
99年12月	103.62	-13.6	167.26	-16.2	16.09	-24.4	53.96	-24.4	5.46	-24.3	14.19	-24.4
単純平均	114.36	-12.8	185.32	-14.9	18.73	-15.5	62.82	-15.4	6.35	-15.7	16.52	-15.3
00年1月	103.75	-9.1	168.95	-11.0	16.13	-20.6	54.08	-21.0	5.47	-20.5	14.22	-20.5

注1: 増減率は、対前年同月比(%)。(マイナスは、円高を示す。)

注2: 為替レートについては、税関長が公示する相場を、当該相場が適用される日数で加重平均したもの。

<分析>

前年度は円安傾向であったが、第4四半期に反発したように進んだ円高が1999年に入って更に進み、1999年1月には対米ドルでは¥113円台からスタート、5-6月に多少緩んだのを除けば概ね円高がつづき、年末は¥102.77と、加重平均で12.97%の円高で終わった。対英ポンドでは、¥186.82から始まり、¥165.85で終わった。加重平均で15.2%の円高であった。

32カ国の平均為替相場は、加重平均で約15%の円高である。1998年9月と10月の平均相場が、それぞれ¥134.70、¥121.49と変動したので、ジャーナルの価格設定の時期に当たって難しい状況があったのではないだろうか。

注: 今回より、円高は(-)、円安は(+)の数値で表示する。税関長が公示する相場も絶対値の増減で表示しているため、分かりやすくこれに合わせた。

8. 1991年～1999年の輸入額と為替相場および実質成長率の相関的な推移

(表 8)

区分	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999
書籍、新聞・雑誌輸入額前年比	% 110.70	% 87.70	% 99.80	% 105.00	% 117.40	% 117.40	% 101.00	% 90.56
各国為替相加重平均値の前年比	% 4.60	% 17.00	% 6.60	% 3.40	% 117.40	% -8.00	% -6.07	% 14.99
円高・円安調整後の実質成長率	% 15.30	% 4.10	% 6.40	% 8.40	% 3.30	% 1.00	% -5.07	% 5.50

注: 為替相場、成長率の(+)は円高又はプラス成長、(-)は円安又は減少。

<分析>

1999年の輸入額の実質成長率は前年比で5.5%であり、過去10年間の期間成長率の加重平均は3.3%/年である。昨年の為替は、米ドルをみると1月-8月に¥120前後の比較的緩やかな変動で過ぎたが、9月から上昇に転じ、年末の支払いが多い12月には年間で最も高い¥102.77となった。(お詫び: 昨年の報告で、実質成長率が前年比といれちがっていました。お詫びいたします。)

4月になれば

島岡 丘

「は一るになれば、どじょっこだの、ふなっこだの…」の歌はその心地よいメロデーで春をイメージさせてくれる。もしこの歌を「4月になれば…」で始めると学校行事のイメージになる。新学期が始まり、入学式、新しいカリキュラムの実施、オリエンテーションなどが目白押しに繋がるいそがしい季節というイメージになる。しかし、多くの日本人にとって、4月になれば、桜が満開になり、花見に出かけたり、野山の散策などをして春の到来を楽しむことになろう。

私の耳には、就職口が決まった話、ゴールデンウィークの海外旅行計画の話、新規事業への乗り出しなど明るい話題が多い。母校の卒業生が、ある大学に就職が内定したという連絡を受けたので、じゃ、お祝いをしようということになり、近くの喫茶店で祝杯をあげようということになった。赤ワインのミニボトルをグラスで飲むとちょうど二人で飲む量になり、結構楽しい門出の祝いになった。

その時の話題で、私の20歳代のことを聞かれた。1958年にフルブライトプログラムでアメリカに船で行った話をしたところ、とても興味を持たれたので、やはり時代が変わると、生活感覚も変わってしまうということをあらためて感じた次第である。

興味を持たれたのはアメリカへ「船で」出かけたということだった。今は飛行機が安い便利な乗り物となって船旅は贅沢のイメージがあるが、当時は全く逆で、飛行機に乗る人はごく少数の富裕階級の人たちに限られていたようだ。

私たちの渡米は横浜の波止場から太平洋横断定期便の旅客船、The President Wilson (ウィルソン号)に乗ってほぼ2週間の旅であった。余談だが、氷川丸も同じく太平洋横断の定期旅客船 (ocean liner) であったが、現在の氷川丸は昭和4年以來長年の勤めを終えて、横浜岸壁に繋げられて洋上レストランなどとしてレジャー用に使われている。

「へー、2週間も海の上では退屈しませんか」、というのがその若い大学院生の質問だった。「とんでもない、退屈どころか毎日が新しい発見の連続であり、友人知人の輪が広がり、親愛の情がお互いにどんどん深くなっていく楽しい日々の連続だよ」と答えた。

実際そうなのである。食事メニューを見て自由に注文できるし、いろいろなものを味わうことができる (ただし、これは1等船客の場合だけである)。船の食事は船客の国籍・文化が様々なせいで、日本料理のほか、フランス料理、中国料理、イタリア料理など、毎回食事を楽しめるのである。ある時、おいしそうなるものを多く注文しすぎて、ウェイターから、あなたはそんなに食べられませんよと親切な注意を受けたこともあった。

夕食後の催しも変化があって面白い。生演奏を聞きながらダンスを楽しめる。乗客には若い女性も多く、私も外国人に負けずにアメリカの女子高生らと楽しくダンスを楽しんだ。当時流行った曲は Around the World in Eighty Days だった。気分良くダンスしていても、洋上では船が揺れることが多く、大揺れの時はしっかりとパートナーを抱きしめなければならない。毎晩イベントがあり、フィリピンの夕べとか中国の夕べなどが続いた。日本の夕べの番が来ることが分かると、われわれ一行はその前日に甲板で出て、炭坑節を踊る練習をした。実際のパフォーマンスでは丹前を着て調子を合わせてやったので、大喝采を浴びた。ハワイに停泊すると本場のフラダンスショーを見せに若い女性たちが船に乗り込んで来てくれる。催し物がないときは新しい人気映画を見せてくれるのである。

昼間は麻雀や囲碁などのやり放題だ。日曜日は礼拝をする人たちもいたが、それにかまわずマージャンをやっている日本人もいた。また、甲板にあるプールで泳ぐことも自由であり、卓球もやり放題である。卓球のボールが海に落っこちても気にせず、また新しいボールを出してくれる。私は足下が揺れていることを忘れ、卓球をやりすぎたために、帰国後しばらく腰痛に悩まされた。運動不足を解消するためには甲板を一・二周すればいいのかもしれない。

船の中は複雑な迷路のようになっていて、時々迷うことがある。仲間の一人が迷ってしまって困っていると、船員が親切に、Where are you from? と聞いたそうだが、咄嗟のことで、I am from Yokohama. と答えたことが仲間の間で話題になったことがある。文法的に正しくても、会話の意図とずれてはどうにもならないという典型的な例だ。

もう一つ話題になったのは、I am seasick. を I am she-sick. と言ったことである。事実それを言った人は結婚したばかりで、船酔いはしないまでも新妻がいなく

て寂しいので、sea というところを she が出たのである
うと一同同情的な見方をした。

2 週間も別世界にいと浦島太郎のようになりませんかという質問に対しても、答えは否である。午前中は講義が、9時から昼食時まで、フルブライト留学生のためのオリエンテーションとして、連日行われる。アメリカの社会、文化、生活の様々な面を取り上げて標準的なアメリカ英語で分かりやすく解説してくれた。アメリカに着いてもオリエンテーションがワシントン D. C. で行われそれが3週間も続いた。

さらに受けた質問は船酔いのことであった。先生は船酔いはしませんでしたかと聞かれたが、初めての渡米でもあり、緊張と興奮に包まれていたせいか、船酔いらしいものは全然感じなかったし、毎日が楽しかったせいもあって快適だったことを伝えた。一方、船に弱い仲間は大変だったことも思い起こした。帰途は1等船客にしてくれたが、行くときはエコノミクラスであり、宿泊の船室は船底に近いところで、食べ物匂いが常に漂い、それが鼻について離れない。また、エンジンの音が地響きのように絶え間なく聞こえる。船酔いする人は無理に食べようとしても喉に通らないため、クラッカーと水だけで毎日を過ごすことになる。サンフランシスコの港にたどり着いた時は顔までクラッカーみたいになってしまうということ話を話した。かって、ヨーロッパから The Mayflower (メイフラワー号) にのってアメリカにわたった、The Pilgrim Fathers (ピリグリムファーザーズ) の人たちは大西洋を150日ほど漂ってようやくアメリカ大陸に着いたことを考えると、ハワイ停泊の10時間を含む2週間ばかりの船酔いは大変だったとはいえないのかもしれない。

船が前後に揺れることを pitching (ピッチング) と言い、左右に揺れることを rolling (ローリング) というが、それが同時に起こることがある。そんな時にはウィルソン号のような大型定期船でも木の葉のようにジクザクに揺れる。船はミシミシ、バリバリと鳴り、今にも真二つに折れてしまうのではないかと恐ろしくなる。自然の力の大きさを実感する。

つい先日のことであるが、旧友が我が家ひょっこり訪れ、南極に観光に行ってきた様子を話してくれた。マゼラン海峡と南極との間は地図で見るとほんの少しの距離のように見えるが、実際は世界で最も風が強く海が荒れるところで、直進ができず、南極にわたるのに10数日か

かることもあるそうだ。

地上の旅よりは空の旅のほうが楽であるということで、1960年にブリティッシュカウンシルの奨学金で英国に留学したとき、私だけは飛行機を選んだ。船で行った仲間は5週間の船旅になり、途中かなり多くの港に寄って見聞を広めたであろうが、赤道直下を通る船旅は大変だったに違いない。飛行機を選んだので、滞在期間を4週間以上も伸ばし、留学生という特権を活用しながら、オーストリアのウィーン大学、ドイツのミュンヘン大学、フランスのパリ商科大学、ギリシアのヨーロッパ人・クラブ、トルコのイスタンブール商科大学など、大学宿舎に安く滞在した。正式なサマースクールはウィーン大学の3週間だったが、ドイツ語を勉強したというよりもイギリス人達(18歳から65歳)の仲間の中で英語の世界に浸っていたというほうが正しいのかもしれない。それ以外は各地で身振りで通じさせる「語学旅行」を体験した。

いま振り返ってみて、やはり若いときは失敗をおそれず、多くの体験をすることがよいと思う。最初から自分の守備範囲を決めてしまってそのレールからはずれないような人生よりも、人生は夢の実現であり、思いがけないことが起こるのが人生であると思って積極的に行動した方が楽しいのではないだろうか。

4月になり、桜の満開を見て楽しんだと思ったら、もう散り始め、それに代わって緑の葉が現れ始めている。9月を学年度の始まりにしようという意見もあるが、日本独特の季節感は4月であり、新学期は4月から始まるという日本人の風習はこれからも続くだろう。

北海道の3月から5月にかけての春の情景の変化はすばらしい。半年に及ぶ根雪の間から、黒々とした土が顔を出し始めると春の到来である。石狩川は雪融けで水かさが増し、時折大きな雪や氷の塊が上流から流れてくる。

「春が来た」という季節感は北国に住む人たちが最も強く感じるのではなからうか。ゴールデンウィークと桜の満開時がほぼ一致する北国の春は格別である。英語の検定教科書を書く機会が与えられたとき、春の情景を次のように書いた。

Spring has special charm here in Hokkaido. The river waters carry snow down from the mountains. Everything wakes up from its long winter sleep. Mother earth comes out here and there.

(茨城キリスト教大学教授)

2000年末の全面改訂が決定!

ニュー・グローブ世界音楽大事典
第2版 全29巻
(本体28巻+Index)

The New Grove Dictionary of Music and Musicians

2nd ed. 29 Vols.

Ed. by Stanley Sadie

2000・11 (注文番号 MBN:9937950)

予約特価 (2000年12月15日迄) 概価 ¥595,000

通常価 (上記以降) 概価 ¥720,000

1980年の刊行以来、世界最高の音楽事典として揺るぎない地位を誇る「ニュー・グローブ世界音楽大事典」が、この20年の学術研究の成果と新しい作曲家や演奏家等の情報を踏まえて全面改訂され、2000年末に第2版として刊行される運びとなりました。



■総見出し数約29,000。楽譜の引用、図版、地図、写真等を豊富に掲載。

■世界各地から約6,000名の専門家、研究家が執筆に参加。前版の掲載記事を大幅に加筆、修正するとともに、新たに約5,600の項目を追加。

■古代、ルネサンスから現代まで、西洋音楽から民族音楽、大衆音楽までを扱う包括的な内容。

■哲学、心理学研究の変化、「デコンストラクション」「ジェンダー」「ポストモダニズム」など現代思想上の潮流を、各論文の書き下ろしにおいて十分に反映。

■楽器とその歴史についての詳細な記述。民族音楽、大衆音楽で使用される楽器も豊富に収録。

★冊子体をご購入の場合、特典としてオンライン版を1年間無料でご提供!

(Macmillan, GBR)

【表示価格はすべて税別】

日本総代理店
M丸善
http://www.maruzen.co.jp/

【本社・日本橋店】〒103-8245 東京都中央区日本橋2-3-10 ☎(03)3272-7211 換替:00170-5-5
首都圏:店 麹町・茗荷谷・有楽町・内幸町・赤坂・渋谷・新宿・府中・北千住・三軒三軒・柏・取手
支店:店舗・営業所 千葉・八王子・大宮・札幌・盛岡・仙台・新潟・郡山・筑波・新潟・静岡・浜松・名古屋
津・岐阜・金沢・京都・大阪・神戸・姫路・岡山・松山・広島・福岡・長崎・鹿児島・沖縄
ニュージャーシー・ロンドン・シンガポール

2000年4月

通巻第395号

日本洋書協会

編集者 高橋 紘

☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920

印刷所=藤本綜合印刷株式会社